

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あお・そら(保育所等訪問支援)		
○保護者評価実施期間	令和7年12月17日	～	令和8年1月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	令和7年12月17日	～	令和8年1月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	令和7年12月17日	～	令和8年1月16日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) ※一施設からの複数回答あり 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達支援の経験が5年以上の保育士を配置しており支援実践経験が豊富である。また、教員免許を持っていたり、前職ではこども園や保育所などで10年～15年以上の職歴があるので、先生方の視点に合わせた支援実践の助言が期待できる。	支援員同士で情報を共有する時間を持っている。意見交換を行い、より幅広い考えが持てるように切磋琢磨している。	今後も情報共有の時間を大切にして、より良い施設支援につなげていく。 同法人内に作業療法士がいるので、話し合いに参加してもらい、多職種連携を図っていく。
2	利用者様は、同法人内にある児童発達支援事業所と放課後等デイサービスを利用している子が大半を占めているため、保護者様の同意のもと情報の共有が容易に行える。	児童発達支援や、放課後等デイサービスの状況も合わせた評価や、支援プログラムの作成ができる。	情報の共有を密に行い、必要な支援を常に検討してより良い支援や助言につなげていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	配置上、現在の契約者以外から利用希望が上がっても対応が困難。	支援員は、児童発達支援事業との掛け持ちなので、出れる日が限られてしまうため件数をたくさんこなせない。	保護者様の要望と、訪問先の要望を聞き、必要な回数や時間を決定していく。 余力が生まれた場合は、新たな契約を増やす。
2	訪問先との情報の共有がより必要。	支援員の都合や訪問先の都合により、十分な話し合いの時間を確保できない時があった。	訪問調整の時点で、情報共有に必要な時間についても合わせて相談しておく。
3	学校への理解や対応力が低い。	配置職員が保育士のみで構成されている。	学校側とのカンファレンスの時間に、学校の運営や学習についてなど質問し、理解を深める努力をする。